

機関番号：51303
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20320013
 研究課題名（和文）パーソナルコンピュータによるサンユッタ・ニカーヤの語彙索引作成とテキストの再構築
 研究課題名（英文）Production by Computer of Index to Samyutta-nikāya and Recompile of its Text
 研究代表者
 逢坂 雄美（OUSAKA YUMI）
 仙台高等専門学校・総合科学系・教授
 研究者番号：30152036

研究成果の概要（和文）：

我々は、(1) サンユッタ・ニカーヤの総語彙索引をパーリ文献協会より出版、(2) サンユッタ・ニカーヤ第1巻の正順と逆順の詩脚索引を中央学術研究所から出版、(3) 仏教混交梵語テキストのマハーヴァスツの正順と逆順の総語彙索引を同研究所から出版、(4) サンユッタ・ニカーヤの語彙索引作成過程で得たテキストの正誤表をまとめて同研究所より出版、(5) サンユッタ・ニカーヤの逆順語彙索引をホームページにて公開している。

研究成果の概要（英文）：

By using a personal computer (1) we have published the index to the Samyutta-nikāya (SN) from PTS in 2010. Furthermore, we have accomplished the following studies: (2) Publication of a pāda index and reverse pāda index for Samyutta-nikāya (2008), (3) Publication of the combined book for the word index to each volume of Mahāvastu-avadāna I, II, and III, from Chuo Academic Research Institute (CARI) in 2009, (4) Publication from CARI the book of the correction lists of the new edition of SN volumes I and V, which have been published from PTS, in 2010, (5) Upload of the reverse word index to the SN on our homepage.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2009年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2010年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
年度			
総計	7,200,000	2,160,000	9,360,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・印度哲学・仏教学

キーワード：印度哲学・思想，サンユッタ・ニカーヤ，パーリ文献協会

1. 研究開始当初の背景

中期インド・アリアン語で書かれた古文献は、初期仏典（パーリ語）を初め、ジャイナ教聖典（アルダ・マガダ語）や大乘経典（仏教混淆梵語）等がその代表例に挙げられるように、世界文化の源流の一つであり、貴重な文化遺産であ

る。初期仏教やジャイナ教は、反バラモンの立場を主張する沙門の共同体から輩出したため、教団組織、実践倫理、教理の形態に類似点が多く、両教の比較研究が不可欠である。しかしながら、これら原典テキストは解決すべき文献学的問題を数多く残しているものばかりであ

る。これら古層聖典を研究するに当たっては、まず厳密な校訂本が必要となり、その校訂本に基づいて翻訳がなされ、内容の検討をすることが当然の手續きとなる。翻訳をする場合、文法はもとより、語彙、構文論等の組織的研究が要求される。しかしながら、初期のジャイナ教聖典にしる、仏典にしる、校訂本や翻訳において、現段階では解決すべき多くの問題を残している。

・研究の全体構想

我々のグループでは、1990年代初頭から語彙、構文論等の組織的研究に計算機が適していることを認識し、中期インド・アリアン語研究の為に学際的な中核的研究グループを立ち上げ、テーマごとに適切な外部研究機関・協力者と連携した。構成員の密接な共同研究の下に、パーソナルコンピュータを使用して、中期インド・アリアン語古文献を系統的に解析できる特殊フォント・エディタ・諸解析ツール等を開発した。これらの解析ツールは単独でも有用であるが、有機的に使用することによってよりその威力が増す。我々の研究は、当グループが確立した独自の有用な手法を活用して、第1次基礎資料（語彙及び詩脚の索引）を作成し、パリー語辞書編集の研究・学術的基礎研究に対して寄与すること、仏教学研究を格段に発展させることに資することを目標としている。獲得したデータ・ツール・ソースファイルを公開して、多くの有能な研究者が活用できるようにオープンな研究環境構築に努めている。なお、海外研究協力者等は、初期仏教に関する研究の世界的な中心機関であるパリー文献協会（PTS、英国）に所属している。

・本研究課題の文献『サンユッタ・ニカーヤ』の重要性：

パリー語で書かれた原始仏教経典は、5つの大きな部（ニカーヤ）に分類されているが、『サンユッタ・ニカーヤ』は、『ディーガ・ニカーヤ』、『マッジマ・ニカーヤ』に次ぐ第3番目のニカーヤで、漢訳仏典の『雑阿含経』にほぼ対応している。第1、第2のニカーヤの索引は、PTSとの共同研究のもとに既に作成・出版し、研究に提供している。『サンユッタ・ニカーヤ』には、仏陀が生涯中のある時期に何らかの機縁について述べた教えや問答がまとめられ、散発的ではあるが、仏陀の短い教えや問答についての豊富な内容が含まれており、極めて重要な文献である。『サンユッタ・ニカーヤ』とは、「主題ごとに整理された教えの集成」という意味で、全体が5つの集に分けられ、それらがさらに56の經典のグループから構成されている。そこには全体で2,875もの短いお経が含まれており、

教義上の問題と結びつけられて様々な視点から扱われている。このパリー語原典テキストは、PTSより5巻本で出版され、第6巻が簡便な語彙索引となっている。

2. 研究の目的

これまで『ジャータカ』を含め、初期仏教文献の重要な原典テキストはPTSより計画的に発行され、研究者に多大の便宜を供してきた。しかしながら、これらの原典テキストには語彙索引が殆ど付されていないのが現実であり、付されている場合でも不完全で誤りが多く、完全な語彙索引が研究者に切望されている。

本研究課題は、初期仏教のパリー語文献『サンユッタ・ニカーヤ』に関する研究である。本研究では下記の事項を目的とする。(1)我々の開発したパリー語テキストの計算機解析ツールとPTSの作成した仏教聖典の電子化テキストを融合的に活用して、完全な語彙索引を作成し、最終年度にPTSから迅速に出版公表する。(2)得られた正確な電子化テキストを新校訂本作成の為にPTSに提供する。(3)語彙の逆順索引を作成して、PTSの許可のもとに我々のホームページに掲載する(ウェブ発信)。

3. 研究の方法

当該研究では、精密な電子化テキスト作成が最も労力を要する部分である。幸い、PTSが『サンユッタ・ニカーヤ』の電子化テキストを作成しており、そのテキストを利用できることが研究グループ構成の一つの要因である。

次に、このテキストをそのままでは索引作成に使用できず、言語学知識に基づく厳密な校正を必要とする。本研究では、各巻ごとに正確な電子化テキストを作成して、その語彙の索引を作成する。可能な限り正確な電子化テキストの作成は、索引結果によるチェックをしながら行われる。正確な索引が作成された段階で、必然的に正確な電子化テキストを作成できる。各巻の索引を完成させた後で、情報処理ツールを使って1冊の索引にまとめる。

索引作成に当って下記の手法を採用する。PTSから提供された電子化テキストは、元々ダンマカーヤ・ファンデーション(タイ)で作成された電子ファイルを基にしたものであり、索引作成の一連の下記作業を最初から遂行する必要がある。

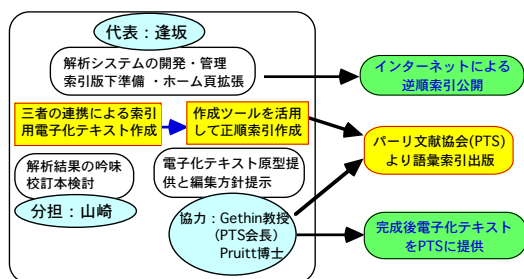
(1) 提供された『サンユッタ・ニカーヤ』の電子化テキストを計算機へ入力し、その形式を PTS 版に揃える。電子化テキストと紙媒体の PTS 版テキストを比較参照しながら、電子化テキストに含まれている多くの誤植を修正する。又、テキスト自体の間違い等を修正する。以上のようにして可能な限り正確な電子化テキストを作成する。これは、計算機上で自動処理できず、人海戦術で遂行せざるをえないので、多くの時間と労力を要する。しかし、これだけでは全部のエラーをなくすることはできず、下記の(3)段階で別の手法により誤りを消去する。

(2) 得られたテキストを我々の特殊フォントによって書き換える。このテキスト作成が結果を左右するので、細心の注意を払い変換作業を実行する。この作業では、主に書き換え用プログラムを使用するが、原典テキストのページに関する情報を付加することは手作業で実行する。

(3) テキストスタイルの独自性に注意し、索引プログラムを微調整しながら索引作成をする。計算結果をプリンター出力する。索引の出力結果を参照しながら、省略文字等の最終チェックをする。索引を参照しながら、電子化テキストの誤り・PTS 版テキスト自体の誤りをより詳しく吟味し、又索引を作成する。これらの誤りがなくなるまで、この一連の作業を数回繰り返す。

(4) 各巻ごとに公表・出版できるレベルに索引の整理をする。原典テキストのミスプリント等の種々のエラーを修正し、校訂本作成時に活用可能な精密なテキストを最終的に作成できる。

次に、上記の作業遂行に当たっての役割分担状況(海外共同研究者の役割も含む)等を下図にまとめておく。



研究者から待望されている当該テキストの完全な語彙索引の作成・出版に当たっては、①信頼できるテキストを計算機上に正確に作成すること(研究方法(1)(2)), ②計算機ツールの稼働(研究方法(3)), ③得られた出力結果の慎重な吟味(研究方法(4)), ④出版と成果公開、の4つの仕事が不可欠である。当

該研究は言語学者のみ、または情報科学の分野の研究者のみでは遂行できず、両者の密接な共同研究(学際的な研究)によってはじめて有効に解析ツールを活用でき、効率的に索引を出版・公表できる。

①の仕事は、多大な時間を消費し、かつ多額の謝金を必要とする。また、計算結果の信頼性を左右する基礎的な要素でもある。初期の電子化テキストに含まれる多数の誤りは、ある程度の知識を有する学生等がチェックした資料を、山崎・Pruitt博士達が監修する。この確定した資料をベースに、正確な電子化テキストを逢坂が構築する。

②についてはテキストの特性に応じたプログラムツールの変更・手直しを要する。これは逢坂が担当する。

③のチェックは山崎・GethinとPruitt博士が担当する。この作業上の個々の問題解決には、相当深い知識を有する言語学者の正確な知識に基づく迅速な判定、統一的な基準に基づく正確な判断を必要とする。相当根気強い単調労働を要する。数人の言語学者の共同作業により、また必要に応じてテキストの校正チェックに人手をかけて、早く正確に大冊の索引を完成できる。計算機による索引作成といっても、人手によるこのような地道な作業が不可欠である。山崎は中期インド・アリアン語の専門家であり、これまでも多数の索引を完成させている。一方海外共同研究者のPruitt博士はPTSにおける電子化テキスト等の責任者であり、『ヴィスツディ・マッタ』の索引を出版した際に、我々と共同作業を経験済みである。また、彼がIndex to the Majjhima-nikāyaのCorrectionsを執筆した。このように海外の共同研究者も索引作成の経験を有する当該分野の専門家であり、この種の研究には共に適任者である。

④最終年度22年度で、各巻の索引をまとめて全体の正順語彙索引を作成する。得られた正順索引出版は英国側の分担(特にGethin会長の協力)の元に迅速にパーリ文献協会(PTS)より出版される。索引の出版段階では、著作権が障害になる場合が多いが、PTSがテキストの著作権を持っていること、海外共同研究者が協会の会長・研究者であることにより、協会より問題なく迅速に出版できたし、今後もできる。出版費用の殆どは協会が負担するが、一部を本科研費でも負担する。また、インターネットの我々のホームページに逆順語彙索引を掲載する。

4. 研究成果

我々はこれまで Norman 教授ならびに Cone 博士（ケンブリッジ大学）と共同で、パーリ聖典の最重要聖典とみなされている『ダンマパダ』、『ヴィナヤ』、『ディーガ・ニカーヤ』、『ジャータカ』、『ヴィスツディマツガ』、『マッジマ・ニカーヤ』のテキストの誤植と誤りを正し、コンピュータによって語彙索引を作成し、PTS から出版した。同博士は現在、パーリ語の辞書を編纂中（A Pali-English Dictionary, 第1巻が2000年に出版され、現在第2巻を準備中で、第3巻で完結予定）で、これらのテキストを選抜したのは、同女史の意向が強く反映されている。

その後を受けて、現 PTS 会長の Gethin 教授、Pruitt 博士と共に、『サンユッタ・ニカーヤ』の語彙の索引作成を共同で実施するに至った。当該研究にて得られた成果を下記の（1）-（5）にまとめている。

（1）『サンユッタ・ニカーヤ』も種々の問題を含んでいる。新しい学問上の特筆すべきことは、『スッタニパータ』や『ダンマパダ』と同様、最も古いものとみなしている最初の第1集、「詩をともなった集成」（Feer による初版本）が2006年に Norman 教授指導の基に Pruitt 博士によって再校訂されたことである。われわれは、Pruitt 博士の新しい校訂を含む『サンユッタ・ニカーヤ』の全5巻の全語彙索引を網羅的に作成し、当該プロジェクト期間内に PTS より出版できた。本研究は、パーリ語辞書編集の研究・仏教学の学術的基礎研究に対して多大な寄与をすることになる。また批判的校訂本作成に重要な寄与をすることになる。さらに、これまでのパーリ語彙とは違う語形を発見し、パーリ文法や韻律の解明に役立つことになる。

その他、下記の出版物を刊行している。

（2）『サンユッタ・ニカーヤ』第1巻の正順と逆順の詩脚索引を中央学術研究所（CARI）から出版した（2008年）。パーリ語で書かれた原始仏教経典、第3番目のニカーヤ『サンユッタ・ニカーヤ』は全5巻から構成されている。当該科研費の初年度ではあるが、すでに第1巻の韻文に関する索引（正順詩脚と逆順詩脚索引）を印刷中である。この研究は、並行詩脚の有無や思想の関連性を研究する上できわめて有用である。

（3）仏教混交梵語聖典群の中でも重要な『マハーヴァスツ』の全3巻の正順と逆順の総語彙索引を、同じく CARI から出版した（2009年）。『マハーヴァスツ』は、最も重要な仏陀の伝記の一つである。使用言語は、仏

教混濁梵語のうち最も古い層に属し、古典サンスクリット語の知識のみで理解することは不可能であり、未解決の多くの言語学・文法上の問題を含んでいる。コンピュータ上にテキストを作成し、網羅的な正順語彙索引を作成することは、仏教混濁梵語の語彙研究の基礎となり、逆順の索引は文法を解明する上で不可欠となり、また仏教混濁梵語で書かれた膨大な大乘経典の語彙と文法の解明を飛躍的に発展させることになる。

（4）『サンユッタ・ニカーヤ』の語彙索引作成過程で得た、当該テキストの正誤表をまとめて CARI より出版した（2010年）。当該古文獻を含め、初期仏教文献の重要な原典テキストは、PTS より計画的に発行されて、研究者に多大の便宜を供してきた。しかし、文献学上多くの問題点を含んでおり、再校訂することが急務であることが Norman 教授（ケンブリッジ大学名誉教授）等により指摘されている。同教授は種々の学術誌の中で、原典テキストの編纂方法が確立されていなかったため、編纂者が東洋版に依存して読みを確立してしまったこと、再刷される時に校正されること無く印刷されてしまったものが多いことを、指摘している。本研究資料の正誤表は上記指摘の具体的な例示・指摘であり、より一層堂外研究進展に貢献すると期待される。

（5）『サンユッタ・ニカーヤ』の逆順語彙索引をホームページにて公開した。従来、解析ツール・作成したテキスト・電子ブック等のデータを、可能な限りホームページ等にて公開している。これは、研究の手法等を全部公開することを意味するが、当該分野の研究推進のため敢えて公表している。当該索引公表もこの基本方針に準拠しており、関連研究会等でもよく活用されると、期待される。

上記研究に引き続き企画している、『アングッタラ・ニカーヤ』の語彙の索引作成により、PTS より刊行されたパーリ語聖典の最重要テキストの索引作成が完了する。パーリ語で書かれた原始仏教経典は5つの大きな部（ニカーヤ）に分類される。我々は既に PTS より、『ディーガ・ニカーヤ』、『マッジマ・ニカーヤ』、『サンユッタ・ニカーヤ』の索引を出版し、斯界に提供している。平成23年度からの研究では、第4番目のニカーヤである初期仏教文献『アングッタラ・ニカーヤ』に関して、①我々の開発したパーリ語テキストの計算機解析ツールと PTS の作成した仏教聖典の電子化テキストを融合的に活用して、完全な語彙索引を作成し、最終年度に PTS から迅速に出版公表する。②得られた正確な

電子化テキストを新校訂本作成の為に PTS に提供する。③語彙の逆順索引を作成して、我々のホームページに掲載する(ウェブ発信)。

当該(平成23年度)事業は、これまでの一連の研究の集大成としての位置づけの他に、当該研究体制・手法等の次世代継承を図ることにも意義がある。そのために、平成22年度を最終年度とする科研費研究において若手研究者(笠松、河崎)との連携を開始した。この連携により目的とした索引作成・出版は勿論のこととして、もう一つの目的としていた校訂本作成に必要な言語情報を PTS に提供できた。この情報提供は、PTS 会長等より今後の当該テキストの編集方上極めて有効と感謝されている。当該事業も若手研究者との連携により、効率的に研究を推進する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[図書] (計4件)

1. S. Kasamatsu, M. Yamazaki & Y. Ousaka, Chuo Academic Research Institute, *Samyutta-Nikāya I: Pāda Index and Reverse Pāda Index* (2008, Tokyo) 137p.
2. E. Fauré, B. Oguibénine, M. Yamazaki & Y. Ousaka, Chuo Academic Research Institute, *Mahāvastu-Avadāna: Word Index and Reverse Word Index* (2009, Tokyo) 801p.
3. S. Kasamatsu, Y. Kawasaki, M. Yamazaki & Y. Ousaka, Chuo Academic Research Institute, *Toward a Critical Edition of Samyutta-Nikāya* (2010, Tokyo) 56p.
4. S. Kasamatsu, Y. Kawasaki, M. Yamazaki & Y. Ousaka, the Pali Text Society, *Index to the Samyutta-Nikāya* (2010, Bristol) 669p.

[その他]

ホームページ等

<http://hirose.sendai-nct.ac.jp/~ousaka/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

逢坂 雄美 (OUSAKA YUMI)

仙台高等専門学校・総合科学系・教授

研究者番号：30152036

(2) 研究分担者(2008年度)

山崎 守一 (YAMAZAKI MORIICHI)

宝仙学院短期大学・学長

研究者番号：90200667

(3) 連携研究者

山崎 守一 (YAMAZAKI MORIICHI)

こども教育宝仙大学・学長(2009年度-2010年9月)

中央学術研究所・顧問(2010年10月-現在)

研究者番号：90200667

笠松 直 (KASAMATSU SUNAO)

仙台高等専門学校・総合科学系・准教授

研究者番号：40510558

河崎 豊 (KAWASAKI YUTAKA)

大阪大学・講師

研究者番号：70362639

(4) 協力研究者

RUPERT GETHIN

UNIVERSITY OF BRISTOL, PROFESSOR OF THEOLOGY AND RELIGIOUS STUDIES, AND PRESIDENT OF THE PALI TEXT SOCIETY

WILLIAM PRUITT

THE PALI TEXT SOCIETY